

授業科目名	疾病の成り立ち	担当者	小林 由紀 岡野 こずえ
単位	—		
時間数	70時間	学年	1学年
授業形態	講義	開講時期	前期
授業の到達目標	各器官系統の疾患全般、すなわち疾患発生のしくみ(病態生理)から診断、治療について理解する。それぞれの病原体とそれによって起こる疾患の関係について学ぶ。また臨床検査の基礎知識を学ぶ。		
授業の概要	<p>疾病により心身機能が障害されると、様々な症状がおこり、生活に影響を及ぼす。その疾病の病変発生の一般的なしくみから各器官系統のおもな病態生理を学ぶ。おもな疾患について解剖生理の知識をもとに、細胞・組織の損傷と修復課程を学ぶ。臨床検査では、他職種と協働して行う。検体の扱い方や正しい検査を行うため知識や介助方法、検査値の基礎的知識について学ぶ。</p>		
授業計画	<p><病理学> 第1章 疾病のなりたちと病理学 ・病理学とは 病理学を学ぶ意義 ・臨床医学における病理学 ・疾患の原因 第2章 疾病のなりたち—基本的病変 ・先天異常 ・細胞・組織の傷害と適応・修復 ・体液循環の異常 ・炎症 ・代謝障害 ・腫瘍 第3章 おもな疾病のなりたち ・呼吸器、循環器、消化器、血液・造血器、内分泌、脳・神経、運動器、腎・尿路、女性生殖器・乳腺、皮膚、感覚器、膠原病疾患</p> <p><臨床検査> 第1章 臨床検査と看護 ・臨床検査の意義と種類 ・臨床検査の介助における一般的な注意 ・検査データについての一般知識 第2章 臨床検査とその介助法 ・一般検査 ・血液学的検査 ・血液生化学検査 ・免疫血清検査 ・微生物検査 ・遺伝子検査 ・病理検査 ・生理機能検査</p>		
テキスト	新看護学3 医学書院		
評価の方法・基準	筆記試験 50点+50点=100点		